

## 感染予防対策と経済性に配慮した病院設計

## 患者のアメニティーとそこに働く医療従事者のための病院設計

藤田 直久 ICHG 研究会 理事

京都府立医科大学臨床分子病態・検査医学部長

【はじめに】病院はホスピタリティ（丁寧なおもてなし）の意味どおり、患者にとって自宅の環境に近いことが必要である。無機質な空間ではなく暖かみのある安らぎの空間である必要がある。

【明るく楽しい病院】1990年代オランダでは病院建築費の5%を芸術的費用に振りむけるという通達があり、オランダの病院はとても安らぎがあり楽しい。色彩や、明るい絵画・オブジェ等も必要である。わが国の病院に暗い絵画が平然と飾ってある光景は感心しない。什器・備品も色彩に考慮すると同時に耐久性に優れ、次亜塩素酸ナトリウム液で清拭可能な物品を選択する。

【光・空気（臭い）】玄関を入れば、パンとコーヒーの匂い、明るく広すぎない空間、広すぎると、空調管理や清掃にコストがかかるためほど度々でよい。

【照明】間接照明はエネルギー効率が悪くほこりも溜まるので、間接照明を極力減らす。照明器具の配置に配慮する。例えば片側廊下の片側照明等、

【ゴミ箱】すべてのゴミ箱は、床に直接置かず壁掛け式にする。また、感染性医療廃棄物等は蓋付きで蓋は手で直接触れることなく開閉できキャスタが付いていることが必要である。ペーパータオルのゴミ箱の蓋は不要である。

【トイレ】トイレはもっとも汚れやすく清掃もしにくい場所である。病院のトイレが汚いと病院の格も低下する。便器や構造に関して解説する。

【バリアフリー】バリアフリーにおいて、一番大切なことは、段差なし、スロープなしである。段差は1cmあっても杖をつく人はつまずき、スロープはストレッチャーや車椅子が押せない。また段差なくてもエレベーターを出たところが1cm盛り上がり上がっていても転んでしまう。病院の駐車場からまた、入り口から1階フロアへは、段差なく平坦である必要がある。

## 【増改築時のアスペルギルス感染症対策】

アスペルギルスは、ほこりとともに存在する微生物である。免疫低下患者（特に好中球減少患者）が重症肺炎を起こすことが報告されている。アスペルギルス感染症予防対策に関して本院での予防対策の実例も交えてポイントを解説する。

【おわりに】病院は、建てたあとから変更をすることは不可能である。また、設計の途中段階では変更も不可能な場合も多い。設計の初期段階から関わる必要がある。